

語学研修全般について

経済学部 2 年 A. I.

私は 8 月 28 日～9 月 19 日にかけてアメリカに行ってきました。実際に行って見て現地の人とコミュニケーションをとることは私にとって予想



以上に困難なことでした。ホストファミリーとの日常的な会話では、ホストマザーはゆっくり簡単な英語を使ってくれるのですが、子どもたちは早口だったので理解できず苦労しました。サンディエゴの町は聞いていた通りとても住みやすい所で、日中はほぼ毎日暖かく、朝・晩は少し肌寒く感じました。また、人々がとてもフレンドリーで、町の人たちが気軽に話しかけてくれるので心が温まりました。アメリカで道が分からなくて困っている時に多くの人に声をかけたのですが、断る人は一人もいなくて親切に教えてくれたのが印象的でした。

学校の授業や大学についてですが、大学の構内はとても広く施設も充実しています。私たちの通った ALI は小人数授業をしていて私のクラスは 20 人くらいでした。そのうち半数は日本人で、韓国人、サウジアラビア人、タイ人などがいました。月曜日から木曜日まで 90 分授業を 3 コマずつと金曜日は選択授業を取っていました。昼は学校内にあるフードコートの様なところで食べるが多かったです。アメリカンフードは基本的に量が多いので注意が必要です。サンディエゴはメキシコに近いのでメキシカン料理も食べられます。やはり和食以上においしいものはないと再認識させられました。

私が一番印象的だった授業はリスニングの授業です。映画を見てどんな内容だったかの質問に答えるというもので、日本にいる時は字幕や日本語吹き替えで見ていた



アメリカ映画の中の英語を聞きとることはとても難しかったけど、新鮮で楽しい授業でした。生きた英語を聞かないと英

語力は伸びないと思ったので、日本でもこの学習方法を実践してみようと思います。

LA に行ってディズニーランドと野球を見に行っただけでもいい思い出になりました。3 週間という短い期間ではあったのですがこの研修に参加していろんな経験が出来て本当に良かったと思っています。現地の人や ALI で出来た友達と会話をしている時に自分の英語が伝わらないことも多々あったのですが、伝わった時は嬉しかったです。もっと英語でコミュニケーションをとれるようにこれから英語力を磨いてまたアメリカに行きたいです。

授業について その①

経済学部 3 年 M. T.

私が受けた授業は、文法、リスニング、オーラルコミュニケーション(会話)で、月曜日から木曜日まで、朝9時半に始まって午後の3時20分まで3つの授業があります。さらに金曜日は、午前中までで自分が好きな授業を選べ、私は「TALK! TALK! TALK!」という会話の授業と、TOEIC の問題を解いていく授業を選びました。その他に参加自由の発音の授業がありました。これらの授業から、特に私が興味深かった「TALK! TALK! TALK!」という会話の授業と、発音の授業に的を絞ってお話していきたいと思います。



まず、「TALK! TALK! TALK!」という会話の授業は、名前の通り会話の授業です。授業の最初に先生から質問が投げかけられ(例え

ば自分の故郷についてなど)、それについてパートナーに英語で説明をしていきます。多くの場合、外国の方とペアになるので、パートナーのとても流暢な英語にかなり驚きました。その後グループを作り、また先生から与えられたテーマについて、みんなで話していきます。この授業は会話をしなければ話が先に進んでいきません。なので、この授業のおかげで、会話が特に苦手だった私は、以前に比べて会話をする事に対して積極的になれ、また会話

授業について その②

経済学部 2 年 Y. H.

を聞くことも、相手の話に対してうなずいたり、質問を投げかけたりできるようになりました。またこの授業のおかげで外国人の友達もできました。なので、会話がうまくなり、また英語が好きになりたい人にはおすすめかもしれません。

次に、参加自由の発音の授業なのですが、先生と授業形式で進めていくタイプとパソコンを使って自分で進めていくタイプ



のものがありません。パソコンを使って進めていくタイプ授業では、多くの外国の学生が綺麗な発音を身につけようと参加し、いつも満席でした。そのような中で授業を受けると、英語に対する勉強意欲がわいてきます。

またパソコン形式だと自分のペースで進められるので、苦手な発音が何度でも繰り返し聞きなおすことができます。なので、留学は3週間という短い期間で時間がないと思いますが、おすすめの授業のひとつです。

最後に、向こうの授業を受けた中で、私が一番感じたことは、外国人の学生は、日本人の学生に比べて積極的かつ真剣です。例えば、発音の授業で一緒だった外国の女子学生は、正確な発音を身につけようと必死で、誰よりも大きな声で発音をし、わからないところがあればその場で即質問をし、わかるまで答えを追求していました。私よりもはるかに英語が話せ発音が綺麗なのに、さらに上手くなろうと努力していました。そんな彼女を見ていると、もっと必死に三週間頑張っていればよかったと思い、また行きたくなります。

留学はたったの三週間で、あっという間に過ぎます。お金もかかるし、知り合いもいない中で生活するのは不安かもしれませんが、少しでも興味がある方はぜひ行ってみてください。きっと貴重な体験になると思います。

まず私が SDSU で授業を受けて思ったことは、英会話教室みたいだという事でした。というのも授業の雰囲気がとても和やかで、教師の方々が皆基本的に笑顔を絶やさないフレンドリーな性格をしていて、授業中もよくジョークを言ってクラスの空気を明るく保ち、生徒もそれを理解し積極的に授業に取り組もうとする姿勢を感じられたからです。

私達は SDSU で授業を受ける前にプレメントテストというクラス分けを決める試験を受け、その成績で各自がクラスに割り振られました。私が所属したクラスでは日本人が大半で、次に中国、韓国、タイなどアジア圏からの留学生、そしてそれ以外の国の生徒は少数でした。最初に授業を受けた時はその事に驚きました。が、考えてみるとそこまで驚くほどの事でも無く、私達が所属したのは中級程度のレベルのクラスで、SDSU の留学生の大半を占める中国人の生徒は恐らく熱意と実力と責任感を兼ね備え上級に行っているであろうことは想像に難しく、また 8 段階のレベルがありそしてその中でも幾つかのクラス分けがあり、日本で同じような授業を受けて来た生徒ならば同じようなレベルに固まってしまうのだろう、と思いました。

授業の形態としては演習に近く、小さめの教室で 10～20 人程度の生徒が一人の教師から授業を受けるものでした。この事もあって英会話教室のような印象を受けていました。また、



クラスによっては教師のアシスタントをする生徒がおり、グループワークの際に教師に代わってアドバイスをする役割を担ったりする、といった事もありました。

授業は基本的に二人一組、または三、四人程度のグループを作り、複数人で課題に取り組む、という形が多かったです。また、各自一人で解くのではなくグループ内で英語を使って話し合い、必ずグループ内で同じ解答を出す、というものが多かったのです。それに際し日本人同士で組むと、どうしても英語では伝えにくいちょっとした事を話すときに日本語を使ってしまいがちなので、出来る限り別の

言語圏の生徒同士で組むように教師が指示していました。しかしいかんせん日本人の生徒が多く、運悪く日本人同士で組んだグループは、勉強にならない事を理解しつつも日本人とのグループであることに安心し気が緩み、授業の質問を、あるいは私語を日本人同士日本語でしてしまう様子でした。

授業の難易度は自分が所属したクラスは比較的簡単なレベルの課題がほとんどで、読解、文法、語彙、文章作成などの筆記の



授業は稀に難しいのも出ましたが基本的に初歩的な問題が出されました。が、それは筆記の授業に限っての話で、聞き取りの授業になると他の授業は一体何故同じレベルなのかと思えるほど難しく、ほとんど聞き取れず苦戦しました。聞き取りの授業では取り組む課題に映画を観るものがあったのですが、ほぼ映像でストーリーを推測する始末で、その後の解説でやっと細部を理解することが出来る、といった感じでした。この差には恐らく他の国との英語学習の仕方に違いがあるのだと思います。日本での英語教育は筆記中心で、聞き取りや発音などの授業は少なく、その所為もあって外国とレベルの分け方に差が出てくるのでしょう。発音できない音は聞き取れないと聞きますし、日本は英語教育を生の英語を中心としたものに変えるべきなのではないかと思いました。そしてそのためには高校のセンター試験中心の英語の授業を、ひいてはセンター試験の英語科目そのものを見直す必要があるのではないかと思います。話が逸れましたが SDSU での聞き取りの授業は自分にとって本当に難しく、それこそ正しい発音を身に付け、ネイティブの人々の中で生活をし生の発音を聞き続ける事でようやく英語の映画を問題無く観る事が出来るのだらうと思いました。そしてそのためにもまずは発音の練習に取り組む必要があり、短期語学研修のプログラムとしても組み込んであった発音矯正の教室に通った理由にもなりました。

一週間の時間割は日本の大学に近く、午前中は 9 時半から 12 時 15 分まで二つの授業があり、午後に同じ長さの授業が一つあって、その後に、そして火曜日と木曜日

のみ午前中の授業前に発音矯正の教室がある、といったものでした。しかしこれは一週間のうち月曜日から木曜日までで、金曜日はエレクトィブクラスと言って自分で好きな授業を選択できるというものでした。そしてそれは午前中のみで、なおかつ二つ取る必要はなく、一限目だけ、ということも出来、発音矯正の教室ありませんでした。また、月曜日から木曜日の授業は月曜日と水曜日、火曜日と木曜日が同じ授業でした。日本の大学で例えると、月曜日から木曜日までの四日間は一限から四限まで、そのうち月曜日と火曜日の三限までの六つの授業は水曜日と木曜日にもう一度あり、発音矯正教室は四日連続同じ時間同じ教室で開かれ、金曜日は一限または二限まで、自分の好きな授業を選択して登録できる、といったものです。

ここまでの話を聞くと、英語学習と言ってもそこまで大変なものでは無いように思われるかもしれませんが、実際日本でこんなスケジュールだったらとても楽でしょう。しかし、およそ初めて外国に大学時代に留学し、滞在先はホームステイ、ホストファミリーとコミュニケーションを取り、週末には何処か観光地に連れて行ってもらい、あるいは友人と計画を立てて遊びまたは買い物に行く、ホームステイ先に小さい子供がいれば一緒に遊んで親交を深める事もあるかもしれません。

そんな中、一日で、あるいは週末を挟んで比較的量のある宿題を終わらせる事が大変なのはわかっていただけ



ると思います。実際に自分も、日々の宿題を終わらせることは出来ても、こつこつと進める必要のあった英語での読書感想文は遂に提出す

ること無く日本に帰って来てしまいました。もし今度留学する事があれば、外国滞在を十分に楽しみながら勉強の方も疎かにする事無く両立し、出来る事なら今回よりも長い期間滞在してみたいと思いました。

三週間という時間は英語学習にはあまりにも短すぎたと感じましたので。

ホームステイのこと その①

経済学部 1 年 K. Y.

私は、夏季短期語学研修に参加してサンディエゴに行ってきました。サンディエゴ空港に到着すると、ホストファミリーがとても温かく迎えてくれ



て、日本と違う環境で暮らすこれからの三週間への心配が和らいでとても安心しました。サンディエゴは、メキシコとの国境があるためメキシコの影響を受けていて、街の至る所にメキシコ料理のレストランがあったり家庭でもケイソディーヤやトルティーヤと言った軽食を日ごろから食べているようでした。私は、サンディエゴ空港からホストファミリーの家に帰る途中に有名なメキシコ料理のレストランに連れて行ってもらいました。今回が私にとってメキシコ料理初挑戦の機会でしたが、トムモロコシの独特な香りもあって少し癖もありましたが、美味しかったです。SDSU



の校舎にもメキシコ文化が少し加わっていて、とても美しかったです。

私が、とても新鮮と感じたのが日々の暮らしの中にキリスト

教の習慣が垣間見えたことです。何を言っているのかはうまく聞き取ることができなかったけれど、食事の前には日本と同様に「いただきます」と言うようにお祈りをしていました。毎週日曜日の午前中には教会でミサがあるらしく、私のホストファミリーも出かけていました。SDSU で友達になったアメリカ人の友人からも少しキリスト教の考え方を教わり、とても興味深いものでした。

9/6 は Labor Day という祝日で、ホストファミリーがホームパーティーを開く予定でした。しかし、パーティー当日の朝にホストファザーが軽い心筋梗塞を起こして急きょパーティーが中止になりました。とても心配しましたが、幸いにも彼は一週間ほどで退院でき、とても元気になっていました。今だから言えることですが、私的にはアメリカの病院にも行くことができている思い出になりました。

今回の短期留学が私にとって初めての留学で、自分の言いたいことをうまく伝えることができなかったり、うまく聞き取ることができなかったりしてホストファミリーを困らせてしまったりもしました。しかし、そんな私をととても親切に受け入れてくれたホストファミリーにはとても感謝しています。

アメリカで生の英語を学びたい人、アメリカの暮らしに少しでも興味がある方は是非参加してみてください。とても素晴らしい出会いが待っていると思います。

ホームステイのこと その②

経済学部 3 年 M. M.



私は、海外旅行が好きで、海外に行くということにすごく関心があり、留学に興味がありました。しかし、半年や 1 年の長期の留学は不安でなか

か踏み出せませんでした。サンディエゴで 3 週間の夏季語学研修があることを知り、是非行きたいと思い、この語学研修に行くことを決めました。しかし、学校の勉強についていけるか、ホストファミリーとは仲良くなれるか、コミュニケーションはうまくとれるかなど、すごく不安でした。

私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、7 歳と 8 歳の男の子 2 人の 4 人家族でした。空港で私を出迎えてくれた時、私のホストファミリーは私を温かく受け入れてくれました。しかし、初めは、ホストファミリーの言うことを何度も聞き直し、自分の言いたいことをうまく伝えることができず、「Thank you」や「Sorry」ばかり言っていました。

それにもかかわらず、私が下手な英語で何かを伝えようとすると、ホストファザーは一生懸命理解してくれ、また、私が理解できない



ときは、インターネットなどを使って私が理解するまで説

明してくれました。ホストマザーは、週末にサンディエゴのビーチや公園に連れて行ってくれ、ときにはパーティーにも誘ってくれました。子どもたちとは、学校がすんで家に帰ってから毎日のように遊んでいました。近所の子どもも加えて野球や鬼ごっこをして遊んだりもしました。また、私は日本料理を食べてもらいたいと思い、私が夜ごはんを作ることもありました。

こうしているうちに3週間はあっという間に経ちました。私は、この3週間でたくさんの人に出会い、日本ではできないようなすごい経験をたくさんすることができました。

休日の冒険

経済学部 2 年 M. E.

夏休みを利用して、アメリカのサンディエゴに語学研修に行きました。平日は朝の9時30分から授業が始まり、休憩をはさんで、3時30分に授業が終わります。放課後は、補修として発音矯正の授業に参加することができます。平日はそれから別の所へ遊びに行く時間は少ないので大学内で買い物をしたり、他の国から来ている学生や日本から来ている学生とおしゃべりするなどして過ごしていました。



金曜の午後からは授業がなくその時間を利用していろいろなところに行きました。9月の第2月曜日がレイバー



デーという休日です。3連休をとることが出来ました。大学の下をトロリーという路面電車のスピードが速くなったようなものが走っており、それをよく利用しました。トロリーの沿線にある施設でよくいったのは、ファッションヴァリーとミッションヴァリーという大型の商業施設やダウンタウンでした。そのような買い物を

するような場所やトロリーやその駅に行って感じたことは、バリアフリーの環境が整っている事でした。比較的新しい建物だったので当たり前かもしれませんが、大分も見習うべき点であると感じました。

一番の思い出は大分大学の6人で、アナハイムに1泊2日の旅行に行きました。アムトラックというアメリカの新幹線のようなもの



を利用し1日目はディズニーランドに行き、2日目はメジャーリーグの試合を観戦しました。ここではメジャーリーグについて詳しく書いておこうと思います。エンジェルスタジアムとディズニーランドの距離は歩いて30分ほどの近さにあり、とても便利が良かったです。6人での行動ということでタクシーを利用しました。この日の試合はエンジェル対マリナーズということで、松井秀喜とイチローを同時に見られるという好カードでした。それだけでも運がよいのですが、ホームステイ先の家族の方が球団の職員をされている方で、私たちはホテル並みのVIP席で観戦することが出来ました。その日も2人は活躍したのですが実は前日、私が1人で観戦した時はなんと2人ともホームランを打ち、野球好きの私としては最高の1泊2日になりました。大変だったことはホテルとアムトラックの予約、あるホームステイ先の反対を説得することでしたが、それも大変良い勉強になりました。世界で活躍する日本人の活躍をアメリカで見る事が出来たことはこの語学研修の最大の収穫だと思います。

※ 記載の学年はすべて参加当時(2010年度)のものです。